

“NEAR TOKYO”

富士山、ふもと暮らし

# 富士宮市

静岡県



## ちょうどいいら、富士宮

### 富士宮は日本一の厚み!

なんといっても富士宮は富士山のまち。富士山の標高3776mに対して、市内の高低差が3741mで日本一です。北と南では気候も文化もずいぶん違います。「何でもアリ!」な包容力が富士宮市の魅力です。

### 蛇口を捻ればうまい水!

富士宮市の水道水は、富士山の湧き水を原水にしているから、水道水としては常識外れの美味しさです。普段の飲み水はもちろんなこと、市内でつくられる農産物や工業製品も、この豊富な水資源に支えられています。

### 年じゅう「うみや〜」

富士宮といえば焼きそばが有名ですが、実は農業や酪農、養蜂なども盛んな土地柄です。新春の酒蔵開きを幕開けに、苺・タケノコ・新茶・ソフトクリーム・ゆで落花生・四ツ溝柿…と季節のお楽しみがずーっと続きます。

### パワースポットも日本一

富士宮市は実はパワースポットの宝庫! 富士山をはじめ、本宮浅間大社や山宮浅間大社、白糸ノ滝など有名なスポットが多く点在しています。富士宮市民は穏やかで優しい人が多いと言われる理由は、実はここにあるのかも!

### 都市へのアクセスがちょうどいい / 富士宮なら、東へ西へ

富士宮市は関東方面、関西方面のほぼ中間地点。どちらにもアクセスし易い便利な環境です!



### 豆知識

#### 地元民の常識 日常“宮”会話

1. 美味しさに感動した時は…「うみや〜」  
使用例 夏のビールはうみや〜なあ。 意味 夏のビールは美味しいなあ。  
応用編 おみや〜は話がうみや〜なあ。 意味 お前は話がうまいなあ。

2. 同意を求めるときは…「ら?」「…だら?」  
使用例 週末、サッカー行くら? 意味 週末、サッカー行くでしょ?  
使用例 そうだら?……ら? 意味 そうでしょ?……ねえ?

3. ゴリ押しするときは…「××だよ!」  
使用例 あんたホレ、宿題するだよ! 意味 あんたはホラ、宿題しなさい!

## データで見る 富士宮市

平均通勤・通学時間 富士宮市(静岡県) 平均28分 東京都 平均47分  
1住宅あたりの延べ面積 富士宮市 116.53㎡ 東京都 64.48㎡  
生活費が安いから断然お得! 富士宮市 93.2% 東京都 100%

## 富士宮市 × 東京都 数値比較

物価指数 東京都を100%換算とする 富士宮市(静岡県) 93.2% 東京都 100%  
1ヶ月の家賃の平均額 富士宮市 52,888円 東京都 78,541円

## 富士宮の四季はカラフルな楽しみがいっぱい! 年間情報

春: 富士宮の新茶, ダイヤモンド富士  
夏: 朝霧キャンプ場, 富士登山  
秋: 富士宮まつり  
冬: たこたこあがれ

## 移住に関する総合窓口

富士宮市役所 企画部 企画戦略課  
Tel.0544-22-1215  
Fax.0544-22-1206  
kikaku@city.fujinomiya.lg.jp  
最大160万円の助成金

## 移住・定住ポータルサイト

富士宮市の詳しい情報はコチラ  
fujinomiya life  
子育て情報・不動産情報・お仕事情報 随時更新、掲載中!!  
http://www.fujinomiya-life.com

# 富士宮広域マップ

FUJINOMIYA CITY MAP



移住者のこえ  
田村さん一家

迷っているより、  
やっちゃった方が早い。  
体で感じることがあるから。

ここではみんなが学校代表。  
選ばれちゃうから、  
子どもたちが積極的に。



移住者のこえ  
岩井さん一家

田村さんのご家族は、平成28年7月に千葉県市の八千代市から、富士宮市猪之頭地区に引っ越ししてきた。移住と同時に、農家を始めた。以前は東京駅前の文具店でサラリーマンとして働いていたという栄次さんは、朝8時の文具店の開店に合わせて、家を出るのは毎日6時半ごろ。夜7時の閉店を待って片づけなどをし、帰宅するのは夜の8時9時という生活だった。長く働いた会社だったが、お店の経営が傾いたことで転職を余儀なくされた。40歳を過ぎての転職。「何をやるか…」と迷いながらの転職活動が始まった。幸いにしてスーパーや小売店から誘いがかかったが、どうにも釈然としない思いが残った。若いころ運動で鍛えたおかげで、まだまだ体力には自信がある。「自分で、何かをしたい」という思いが募り、気持ちは農業に向かった。妻の反応がわからない。半分怖いような気持ちで真弓さんに相談すると、「いいじゃない」とあっけなく賛成された。農学部出身の真弓さんは、大学で食品流通を学んでいた。独身時代はAパレルの仕事をしていて、家のご修繕もあらかた済んで、パン屋の開店準備を進めている。改修費用は予定外の出費で痛手だったが、それがも越えてきて良かった。家の前の木をスルスルと登っていく子どもたちを見ながら、「東京では「登ったら木がかわいそう」という発想なので、子どもたちは木登りなんてやったことがなかったんです」と、京子さんは話す。「でも、ここでは自由に遊べます。また、学校の生徒数が少ないので、授業で作った作品に賞をもらったり、ソフトボールの学校代表に選ばれたりします。学校代表といっても、みんな代表なんですよ。どんどん選ばれちゃうから、苦手なことでも挑戦せざるを得なくて、最近は積極的になってきた気がします」と笑う。

「これが、必需品でね〜。地下30cmあたりに硬盤があってね。それを壊さないで作物の根っこが育たないですよ」と栄次さん。

今は5時半起床。2時間ほど畑に出て、8時ごろ家族そろって朝ごはんを食べる。「家族みんなでご飯を食べたり息子と遊んだりできるのは、以前の生活では考えられない。大事な時期を一緒に過ごせて嬉しい」とニコリ。

田村さんが取り組んでいる自然農法では、いわゆる「肥料」は撒かず、チップ(砕いた木材)や竹、刈り草などを肥料がわりに畑に入れる。これらが分解して肥料のような働きをするのだ。

岩井良之さん・京子さん・夕芽ちゃん・祥恭くん

平成27年7月に、富士宮市稲子地区に移住してきた岩井さんは、もともと東京都板橋区でパン屋を営んでいた。東京も悪くはなかったが、「いずれは自然の豊かな田舎でパン屋をやりたい」という気持ちはずっとあった。東京郊外から始めて、埼玉、神奈川、山梨、静岡と少しずつ範囲を広げながら、場所を探した。富士宮に来たのは、移住計画を知った知人が紹介してくれたことがきっかけ。市役所から紹介を受けた空き家を見学に来たら想像以上に山の中だったので、「ここはナシかな…」と思っていた矢先、到着した家を見て気持ちが一変した。古民家風の平屋が気に入った。緑いっぱい環境や、水がきれいなの魅力だ。パン作りのためにも、水がきれいなのところが良い。そう考えて移住を決めた。移住と同時に自宅をパン屋を開くつもりだったが、住み始めると、手直ししなければならないところがあちこちに見つかり、パン屋の開店はひとまず断念することに。急ぎ市街地の農産物直売所へ間借りして、週2日、そちらでパンを焼く。

現在では、家の改修もあらかた済んで、パン屋の開店準備を進めている。改修費用は予定外の出費で痛手だったが、それがも越えてきて良かった。家の前の木をスルスルと登っていく子どもたちを見ながら、「東京では「登ったら木がかわいそう」という発想なので、子どもたちは木登りなんてやったことがなかったんです」と、京子さんは話す。「でも、ここでは自由に遊べます。また、学校の生徒数が少ないので、授業で作った作品に賞をもらったり、ソフトボールの学校代表に選ばれたりします。学校代表といっても、みんな代表なんですよ。どんどん選ばれちゃうから、苦手なことでも挑戦せざるを得なくて、最近は積極的になってきた気がします」と笑う。

「ゆめしよう」と書かれたパン屋の看板は良之さんのお手製。手先が器用な良之さんはロケットストーブやベンチなど、なんでも作ってしまう。「こういうのが好きなので苦はないのですが、暮らすコトってキリがないよね…」と苦笑い。今はあえてガス契約をせず、お風呂や煮炊きも薪で行っている。

以前は夜中の12時に起きて、練馬の自宅から板橋へ通う生活。睡眠時間は毎日4時間くらいしかなかった。移住とともに仕事もペースダウンして、子どもたちと一緒に過ごす時間が増えた。

夜中15時  
寝るの時は  
独り占め